

池田健吾さん (福井支部)



《現職中の一歩の思い出は》

新任で行った坂井町新郷小のことですかね。赴任してすぐに福井地震があり何日も学校に泊まり込んだこと、20人程の学級の中から二人も教員になってくれて、長く交流が続いたことなど忘れられませんね。春山小時代には、東京教育大学へ1年間内地留学をして「スポーツにおけるグループダイナミックス」について学びました。その後、新設校の明新小では体育だけでなく、広くグループ学習やグル

ープ活動を取り入れた集団作りで学校の礎を作ったと自負しています。子どもが生き生きとし、成長する姿がうれしかったです。

《今一番の楽しみは》

退職後、同好の士が集まってソフトバレーボールを始めたんですが、チームづくりから市の組織づくりまでやりました。今でも松本チームで週2回、夜2時間汗を流しています。練習を休むと身体がうだるといふか、しよきつとしないね。健康づく

りにはスポーツが一番。初心者も入れてあげて皆で楽しむことが大事だと思います。

《若い人へ一言》

「泣かんと遊ぼう」ですね。体力がないと何もできん。いつまでも若くいるためには身体を動かすこと。人と会って話すことも大事、仲間と碁を打つときも、僕は軽口を言いながら打つんですよ。冗談を言い合う「おどけ」の心も大切ですね。

お二人ですか！

年齢を重ねても、今なおいきいきと活動されている方を訪問し、長寿や豊かな生き方の秘訣についてお話を伺ってきました。

(訪問者・編集委員)

谷口久枝さん (福井支部)



《画》や瓢箪に描かれたお経と仏画の作品をじっくり鑑賞させていただきます。

《今一番の楽しみ・生きがい》

65才ごろでしたか、孫守りもすんで今からは勤めた分くらいは好きなことをしたいと、いろいろ始めたんです。そのうちのひとつが仏画です。県民会館の展覧会での出会いから魅せられて、市の写仏の会やNHKの通信講座へ入り独学で学びました。夫が作る瓢箪に私が仏画を描き、夫が写経するという協同作業も始まりました。それが掛け軸の作品へと移っていったん

です。うちは婦唱夫随ですね。長い線を描くとき雑念をふり払い無心になると、心が落ち着きます。顔彩で色づけする配色を考えるのも楽しいです。

《教員時代の一歩の思い出は》

就職したらすぐに終戦で、進駐軍の命により図書館の本にまで墨塗りをしたんです。学習指導要領も変わって、コアカリキュラムなどの英語の言葉が入ってきてなかなか理解できませんでした。情操教育重視ということだったんでしょうか、すぐ県の合唱コンクールも始まり、私はそこから音楽に取り組むよ

うになりました。福井祭りや国体で鼓笛隊の指導をするなど、子どもと一緒に音楽活動をしてきたことが一番楽しかったです。

《健康面で気を付けていることは》

小さいときは病弱だったんです。それで、よくかんで食べること、よく歩くこと、規則正しい生活を心がけてきました。でも一番は何でも楽しんでやることです。今は、目あてを決めて90才まで楽しく生きることが目標です。



生き生き活動紹介

地域の古典文化・芸能を誇れる子どもたちを！

鯖江支部 加藤 芳恵

鯖江市には、文楽と狂言という二つの古典芸能がある。ここでは狂言について記す。

日本古典文学全集(小学館発行)『狂言集』の200曲以上ある曲の一つに『漆師平六』というのがある。越前の漆職人を主人公とした曲で、400年余も以前から根拠のはっきりした古典芸能の実在は地域住民には誇りの一つでもある。私たち「おばばの会」もそれを継承すべく舞台に立つて啓蒙に努めている。

また子どもたちに繋ぐため狂言クラブを立ち上げ、地域住民と学校が子どもたちの健全育成と地域活性を目指しているオープンスクールで、ご当地創作狂言『うるし桶』(増澤善和先生作)を発表した。

それ以降6年間、月2回の狂言クラブの授業で、私たちは子どもたちから多くの元気を貰い、子どもたちも地区文化祭で日頃学習した狂言を発表し、たくさんの方から拍手をいただき自信をつけている。



支部活動紹介



福井支部

会員が楽しみを共有する活動として、「鉢花の育て方」を学びました。



小浜支部

小浜と大飯と一緒に合同の総会「若狭ブロック総会」を行っています。



丹生支部

テーマを持って人生を豊かに送られている会員のお話を聞きました。



仲間と楽しく

遊歩道

『マクンドロ』

今立支部

室賀幸子

退職してからの楽しみの一つは、朝ドラが見られること。今は、「花子とアン」で一日が始まっている。
想像の翼が広がるはな。祖父の周造にまで影響を与え、周左衛門として辞世の句を詠んで幸せそうに世を去った場面が心に残っている。

はなとは異なるが、私も空想するのが好きである。実家の近くに『マクンドロ』と呼ばれる川があった。子どものころは洗い場があり、洗濯などができるようになっていた。変わった地名だと思っていたが「なぞ」のまま過ぎてきた。ところが、何年前か、粟田部の歴史について話を聞く機会があった。古墳時代、豪族はマコモという植物で砂鉄を精製していたらしい。粟田部には継体天皇ゆかりの地や行事が多い。近くの山に古墳もあるらしく豪族が支配し

ていた土地柄だったようだ。何日かしてふっと『マクンドロ』が蘇ってきた。『マクンドロ』は『マコモ・ドロ』つまり、マコモとドロで砂鉄を精製していた場所ではなかったのか。遙か古代に思いを馳せ、子どものころの「なぞ」を独断で解いて喜んでいてくれた。
今は「湯尾」と「ホノケ山」との関連について空想している。図書館などで史実的根拠を探すのも、これからの楽しみの一つである。

きてみねの

ご当地紹介

名水百選「瓜割の滝」

三方上中支部 杉谷幸一郎

瓜割の滝はJR上中駅より小浜方面へ車で2分、若狭町の真言宗天徳寺境内の奥に位置する。瓜割の滝から湧き出る瓜割の水は、国の名水百選に選定され、「ふくいのおいしい水」にも認定されている。瓜割名水を汲んで持ち帰ることができ

る水汲み場もある。滝の周辺が名水公園となっており、お食事とお土産の店「名水の里」が地元天徳寺区の皆さんによって運営されている。無農薬栽培、旬の野菜や米、くずまんじゅうが好評。是非一度ご来訪を。

